Characteristics and Treatment Outcomes among Migrants with Pulmonary Tuberculosis: A Retrospective Cohort Study in Japan, 2009-2018

メタデータ	言語: English
	出版者:
	公開日: 2023-06-19
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 李, 祥任
	メールアドレス:
	所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2002919

授与機関名　順天堂大学

学位記番号　甲第 2604 号

Characteristics and Treatment Outcomes among Migrants with Pulmonary Tuberculosis: A Retrospective Cohort Study in Japan, 2009-2018

外国出生肺結核患者の背景と治療成績：本邦における 2009-2018 年後ろ向きコホート研究

李 祥任（り さんいん）

博士（医学）

論文内容の要旨

近年、日本では結核罹患率が減少傾向にあるが、年間新登録結核患者数における外国出生者の割合は増加傾向にあり、2020 年には 11.3%となった。本研究は、過去 10 年間の外国出生肺結核患者の背景と治療成績を記述し、治療成績が「非成功」の要因を明らかにすることを目的とした。

2009 年から 2018 年に日本の結核登録者情報システムに新登録された活動性肺結核患者のコホートデータを活用し、多剤耐性結核を除く外国出生患者(9,151 人)を研究対象とした。本研究では治療成績分類のうち、治癒と治療完了を「治療成功」、それ以外の治療成績（死亡、失敗、脱落中断、転出、治療中、不明）を「治療非成功」とした。「治療非成功」のリスク因子について、身体的・社会経済的・移住者に関係する側面の観点から説明変数を選び、多変量ロジスティック回帰分析を用いて検討した。

対象患者の 70.3%は 34 歳以下であり、全体の約 8 割を占める患者が中所得国生まれの者であった。職業別には、“高校生以上の学生”と“サービスセクター以外の常用勤労者”が、全患者の半数以上を占め、増加傾向にあった。10 年間の治療成功率は 67.1%であった。治療非成功(32.9%)の内訳では、治療中の転出(14.8%)が最多であった。治療非成功の主要リスク要因は、健康保険分類が 無保険の者も含まれる“その他・不明” （調整オッズ比(AOR)=3.43,95%信頼区間(CI)2.57-4.58)、日本入国から結核診断迄の期間が“1 年未満”(AOR=2.61,95%CI 1.97-3.46) 及び“1 年-5 年未満” (AOR=2.44,95%CI 1.88-3.17)と、男性(AOR=1.34,95%CI 1.16-1.54)であった。

日本における不安定な社会経済状況や、入国後間もない結核診断が、外国出生肺結核患者の治療成績に影響を与えている可能性が示唆された。無保険などの患者の不安定な社会経済状況が、結核治療の継続を阻害していた可能性も考えられる。また、外国出生者にとって入国後間もない結核の診断や治療は、海外の移住先で言語の壁や、母国と異なる医療制度を理解する難しさなどに直面していた可能性も考えられる。こうした個々の患者の背景に、より一層の注意を払い、外国出生結核患者の治療成功に向けた支援の強化が必要である。